

# 農業リスク診断活動が総合事業の理解広げる

JA共済連では、「自己改革」の取り組みの一環として、農作業中のけがや農業施設の損害など、農業者を取り巻くさまざまなリスクを点検し、対策を提案する「農業リスク診断活動」を展開している。JA京都市では、この活動を生かした独

自の農業生産工程管理（GAP）を創設し、共済と営農の各担当が一緒に農家を訪問する体制を整えている。JAの総合事業の力をフルに発揮するJA京都市の狙いや取組みを紹介する。

## JA京都市版GAPで自己改革を实践 労働環境を改善し後継者確保へ

### 市民の理解と共感が 持続的農業の第一歩

JA京都市管内は、歴史的な建造物や食文化を求めて国内外から大勢の観光客が訪れる世界的な観光都市であり、府内の総世帯数の6割を抱える大都市部だ。一方、伝統ある京野菜の主産地であり、これまで地域と共存しながら地域農業を守る歴史を重ねてきた。

### 農業リスク診断活動で 労働環境を改善し 後継者確保へ

同JAは持続可能な地域農業を維持する上でも、同GAPを活用したい考え。その中でもポイントになるのは、チェック項目に盛り込んだJA共済の「農業リスク診断活動」だ。

地元住民から愛され、地域農業と京野菜のブランドを将来的にも守っていくには、地域農業に対する住民の二層の理解と共感を得ること



管内のイチゴ栽培農家は「こういった農業リスクは普段は気に掛けていなかった」と語る。農業リスク診断活動での気づきが広がる



GAPの承認を受けた圃場で栽培された農作物には当マークが表示される

課題となっている。一方、事業の承継に向けた環境改善において、リスク管理は欠かせない。特に、農業は他の業種と比べ、作業中の事故の発生割合が高く、より良い労働環境に改善していくには、日々の農作業のリスクに向き合う必要があるからだ。農業リスク診断活動は農業経営を取り巻くさまざまなリスクを確認し、明らかにしたリスクへの対策を提案する一連の活動だ。同JAは農作業の安全性の検証と労働環境の改善を自己改革の柱の一つに据えている。清水克彦常務は「京都市に多い家族経営の場合、重大な事故が起こると生活基盤が揺らぐことにもなりかねない。農家に作業中のリスクを意識してもらい、労働環境を改善することが、後継者確保にもつながる」と強調する。栽培管理をはじめ、伝統的な農業手法を営む農家ほど見えないリスクにさらされている可能性がある。同JAは大事に至る前に気づいてほしいと推進を強化するとともに、生産性向上にも寄与する同活動の展開に期待を寄せる。



JA京都市（京都府）  
戸田秀司組合長

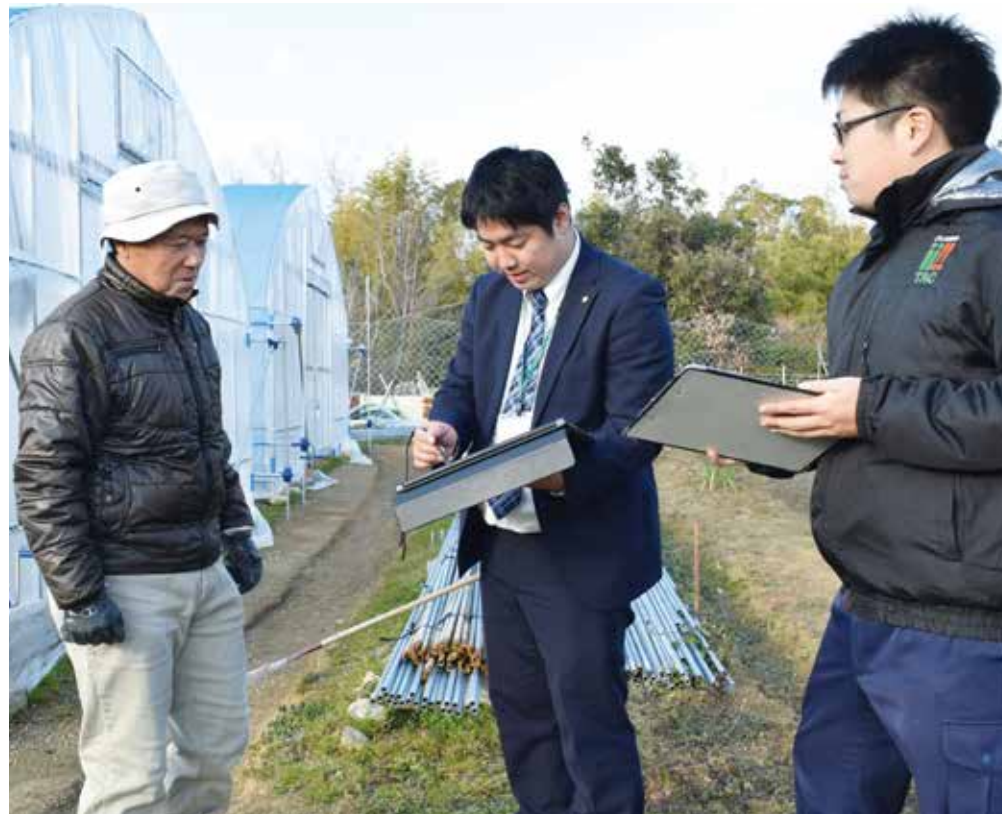
## 農業リスクなどの気づき広げ 地域の活力向上へ

当JAでは平成30年度からJA京都市版GAPに取り組んでいます。これはJA自己改革の柱である「農業者の所得増大」のもと、農業者の生産意欲の向上や持続的農業生産を推進するために始めました。

京野菜のブランド化を推し進めるとともに、安全・安心を目に見える形で消費者に提示できるのはGAPの利点です。京野菜

### 事業に「横串」 増える農家との接点

同GAPの取組みでは、地域農業の担い手に向くTACが中心となり、個別相談や現地調査を行う。ただ、農作業の安全性の検証といった労働環境の改善に関する項目は、ライフアドバイザー（LA）と共に行う。同GAPの承認取得に向けた相談や実践の中で、農家の経営改善に向けた実務としてTACとLAと一緒に農家宅や圃場を訪問する活動が始まった。農業リスク診断活動



LA④はTAC⑤と一緒に訪問。生産者へ一つひとつ丁寧に農業リスク診断活動を行っている

## TACとLAが連携し農家訪問 農業リスク診断活動で深まる農家との信頼関係

### 営農の話題で会話が弾む 丁寧なヒアリングが 新規加入にも

LAは農業リスク診断活動を通じて、「特に経営主の方とも頻繁に話すことができるようになった」と、新たな役割を発揮できていると実感する。これまでLAにはなじみの薄かった営農の話題で会話が弾むことも増えたという。

さらにLAからは「タブレットを見てもいいながら組合員の相談を聞いていると、自分自身にとっても新たな気づきにつながった」「診断をしながら丁寧なリスクを洗い出すうちに、リスクへの備えが不十分な点が見え、契約者さまもよく納得された上で、ご提案した共済に新たに加入いただけた」とさまざまな成果を示す声が上がっている。

を組み合わせること、JAの総合事業の力が目に見える形になりつつある。

農業リスク診断活動は共済連のタレット端末「Tablet's（タブレット）」に搭載された農業リスク診断システムを使う。その場で各担当者へ伝え、視覚的にも分かりやすく話ができることから農家にも好評で、「TACが営農関係でいろんな提案をしてくれることに加えて、LAと一緒にリスク診断してくれるのが非常にうれしい」とJAらしい提案を喜ぶ声が聞かれるようになった。

のさらなる価値向上に向けて、取り組みを加速させている最中です。GAP承認の過程では、農業リスク診断活動を必須項目にしています。農業者はどうしても「生産」そのものに目が行きがちです。農作業用機械によるけがや事故といった農業リスクを回避するためにも、まずはリスクに気づいてもらうことが大切です。

JA京都市版GAPで農業リスクと向き合い、歴史ある地域社会との豊かな共生を目指した取組みを、今後も推し進めていきたいです。

今すぐ  
診断！

農家さんのための

# リスク診断



農業を取り巻くリスクに備えていますか？

「いざ」という時のために、チェックしてみましょう！

農業リスク診断

検索

<https://nougyoushindan.ja-kyosai.or.jp/>

